

《安心して地域で自立した生活を継続できるまち・

世田谷の将来像 - イメージ図 - 》

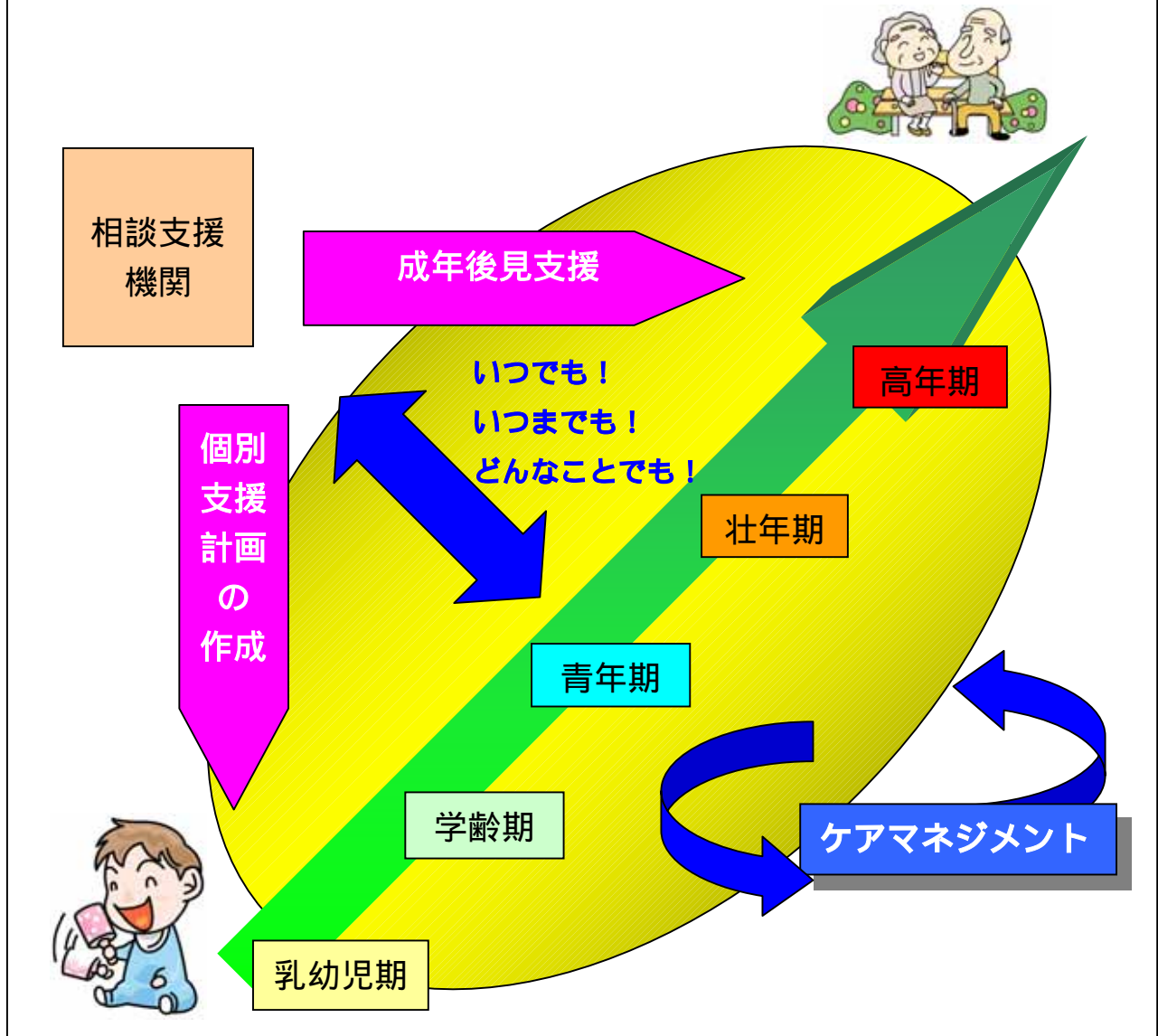
これは、「第3章」から「第5章」までを受けて、施策を展開していった際の将来像（イメージ）を表したものです。

（イメージ1）生涯にわたる継続的で一貫した相談体制

（イメージ2）自立した地域生活を支えるネットワーク

（イメージ3）共に生きる地域社会の実現

(イメージ1) 生涯にわたる継続的で一貫した相談体制



ポイント

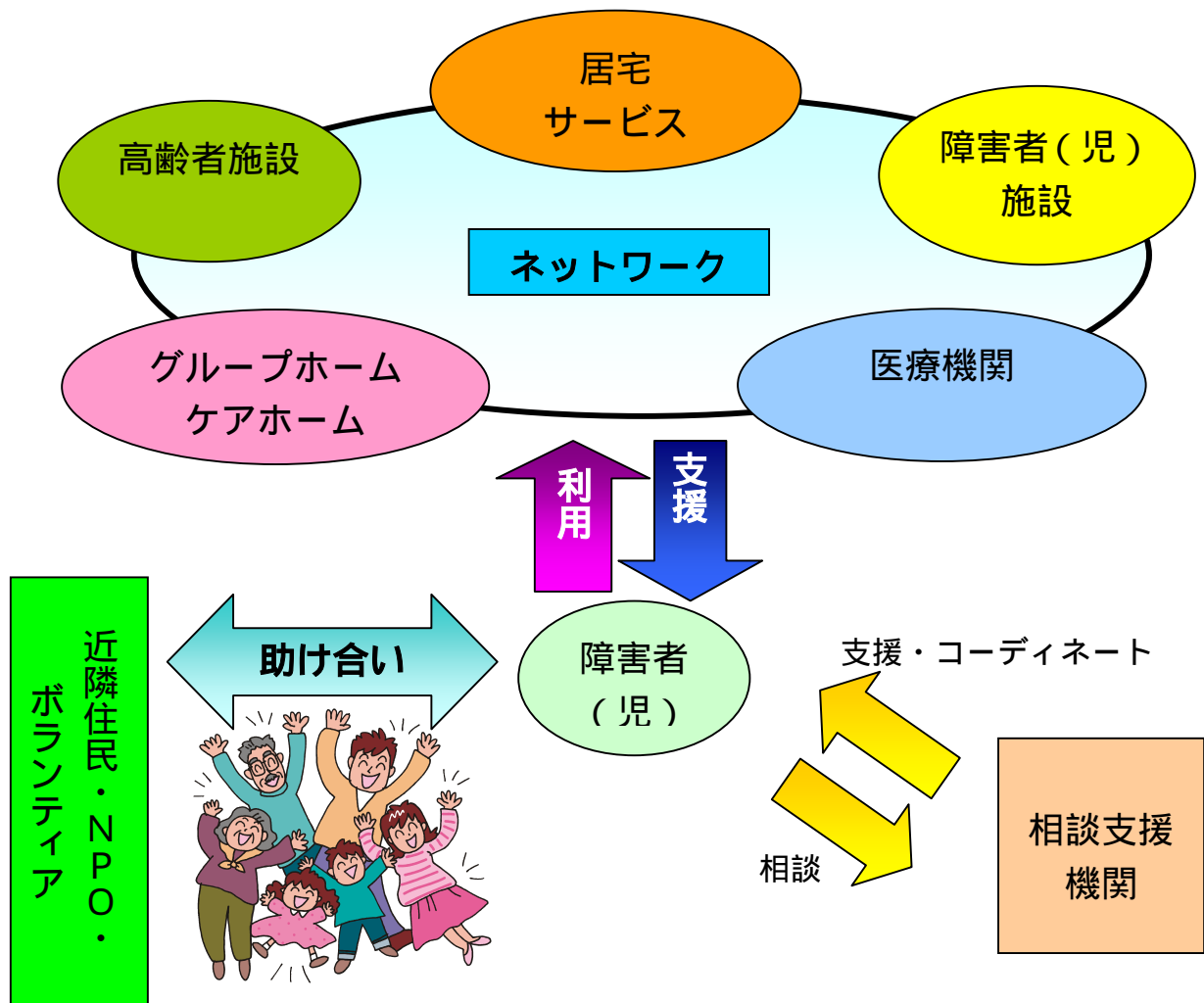
「いつでも!」 困ったときにはいつでも気軽に相談できる。

「いつまでも!」 ライフステージで分断することがなく、切れ目のない相談ができる。

「どんなことでも!」 サービスの利用方法から日常の些細なことまで何でも聞ける。発達障害等の新たなニーズについても対応している。

必要に応じて、個別支援計画の作成や成年後見支援を利用できる。

(イメージ2) 自立した地域生活を支えるネットワーク



ポイント

住み慣れた地域での自立した生活を支える様々な支援が可能となっている。
利用者の個別のニーズに対応した、多様な住まい方（グループホーム等）が整備されている。

近隣住民どうしの助け合いが日常化し、障害者（児）が地域で孤立しない社会が構築されることで、障害者（児）の地域生活に安心がもたらされている。

(イメージ3) 共に生きる地域社会の実現

共に暮らし、共に学び、共に働く



地域社会の障害理解

地域社会での交流の活性化

就労
支援

コミュニ
ケーション支援

外出の支援
(移送サービス)



ポイント

障害の有無に関わらず、人々が共に暮らし、共に学び、共に働く社会が構築されている。

就労支援、コミュニケーション支援、外出の支援（移送サービス）によって、地域社会での人々の交流が活性化し、地域社会の障害理解が促進される。

発達障害等の新たなニーズも含め、障害全般についての地域社会の理解が進んでいる。